様式 9-1

日本人学校における教育実践の質的向上に関する領域横断的研究 －泰日協会学校を中心に－

川本 吉太郎（広島大学大学院 人間社会科学研究科 特任助教）

１．研究の目的と問題の所在

本研究の目的は、日本人学校における教育実践の質を支える教員に注目し、その語りを中心に分析・考察することで、日本人学校の教育学的な意義を再定位し、今日の日本の学校教育への示唆を考察することである。なお本研究は、世界最大規模の在籍生徒数を誇る泰日協会学校を調査研究の対象と定める。

海外で生活する日本の子どもたちへの教育機会保障の在り方が問われている。現在、多くの日本人が国外で生活している。海外で暮らす義務教育段階の子どもは 2017 年の時点で 82,571 人であり、10 年間で 2 万人以上増加している。このような状況において、海外で生活する日本の子どもたちの教育機会はどのように保障されうるのであろうか。海外で生活する日本の子どもたちの学習権保障の選択肢となる日本人学校は、日本からの派遣教員により、原則、日本の教科書および日本語を用いた、日本の学校と同等の教育課程による教育が行われている。このことから日本人学校は、海外に在りながらも日本の学校教育に「近しい」内容・方法による教育が提供されていることが考えられる。他方で、近年の日本人学校では在籍生徒およびその保護者の多様化により、対応が困難な状況にあるという。そこで本研究では、日本人学校を取り巻く制度と教員の語りの分析を通じて、制度・実態の両面から今後の日本の公教育の在り方に示唆を得る。

２．日本人学校の歴史的変遷

戦後、海外で暮らす日本人が増えていくにつれて、その子どもたちの教育を行うことが喫緊の課題となり、日本人学校が建てられるようになった。その中で最初期に建てられたタイの日本人学校の歴史の中で問題となったのは、所在地における法的な位置づけであった。そのような困難な状況において教師たちは、校歌や校旗を作り教育活動に従事していた。

３．泰日協会学校の法的位置づけ

泰日協会学校は、タイの公式な私立学校のうち「制度内インターナショナル」というカテゴリーに位置づけられ、日本語を教授言語とし、日本の学習指導要領による教育活動を実施することが可能となってきた。ただし、タイの私立学校として、設置認可申請者や管理職をタイ国籍保持者が担う必要があったり、タイ語・タイ文化学習の実施や現地当局の査察の受入等に応じたりする必要があった。本章では、タイ国内の日本人学校が現地当局といかなる関係性にあるのか、「タイ私学法」をはじめとした各種法令を基に若干の検討を行った。これが即座に日本人学校の教育実践の質的向上に繋がるわけではないものの、少なくとも日本人学校は日本国政府の主権が及ばない地に位置していることから、現地当局との良好な関係性を基盤に教育活動を実施していく必要があるのは間違いないといえる。

４．教員インタビューの実施

本章では「当事者のリアリティ」の視点を得るために、日本人学校で働く教員を対象にインタビューを行い、その語りを分析した。インタビュー調査は、広島大学大学院人間社会科学研究科の倫理審査委員会による研究倫理審査（承認番号：HR-ES-001092／承認日：2023 年 7 月 26 日）を経て、現職教員 8 名に実施した。インタビューでは、1）日本人学校の教員になろうと思った理由、2）日本人学校でのやりがいや困難な経験、3）今後のキャリアの展望の 3 つを中心に語りを得た。8 名の教員からは、独自の研修体制や日本人学校経験が自身の（学校）教育観を相対化する契機となったこと、国際理解・現地理解教育の観点から学びを得たことなどが語られた。

５．結論

（1）日本人学校が有する教育学的な意義

日本人学校の教育学的な意義は、①泰日協会学校が外国に居住している現地の「日本人」によって立ち上がってきたこと、②泰日協会学校が異なる国家の法令・政策の中に位置づき、現在まで運営されていることである。

（2）日本の学校教育（実践の質的向上）への示唆

日本の学校教育への示唆として、インタビューの結果を中心に３点言及する。１点目は、文科派遣教員と学採教員を組み合わせた学内研修体制の構築である。２点目は、児童生徒が日本を相対化して捉える視点を醸成させる存在としての教員の役割である。３点目は、現地校（海外）の学校や子ども（その背景にある文化）と交流機会を持つことの有用性である。

（3）グローバル化時代における日本人学校の位置づけ

実質的な機能（海外に住む日本人の子どもの教育機会保障機関）と期待される機能（グローバル人材育成機関）が併存する今日の日本人学校は、より創造的な日本の公教育を形成するための研修機関として再定位し、意義づけることができる。

（共同研究者：石井佳奈子、太田淳平、髙須明根、田口直也、橋本拓夢、藤原由佳、服部美紀）